

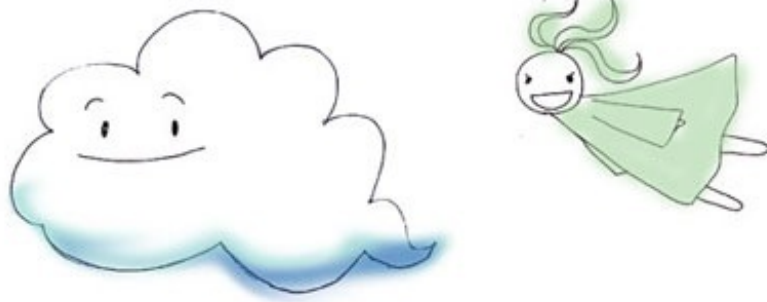
くものこ  
くらうど



くもの くらうど は おさんぽがだいすき。

でも まだ うまれたばかりの くらうどは

じぶんで すすむことが できません。



だから いつも かぜの ういんでい と いっしょに おでかけ。

とおくへ とおくへ おでかけします。

そんな あるとき ういんできが いいました。



「あれれ くらうど

なんだか ふとっちょさんに なってきたね。」

くらうどの からだが なんだから おおきく なっていました。

「あれれ ほんとだ

なんでだろう？」

「あっ したが うみだからだよ ういんでい」

くらうどたち くものなかまは

したの おみずが じょうはつして

おおきな かたまりに なったものなんです。

「あ ほんとだ うみだね」

「うん きょうは おひさまも にこにこだね」

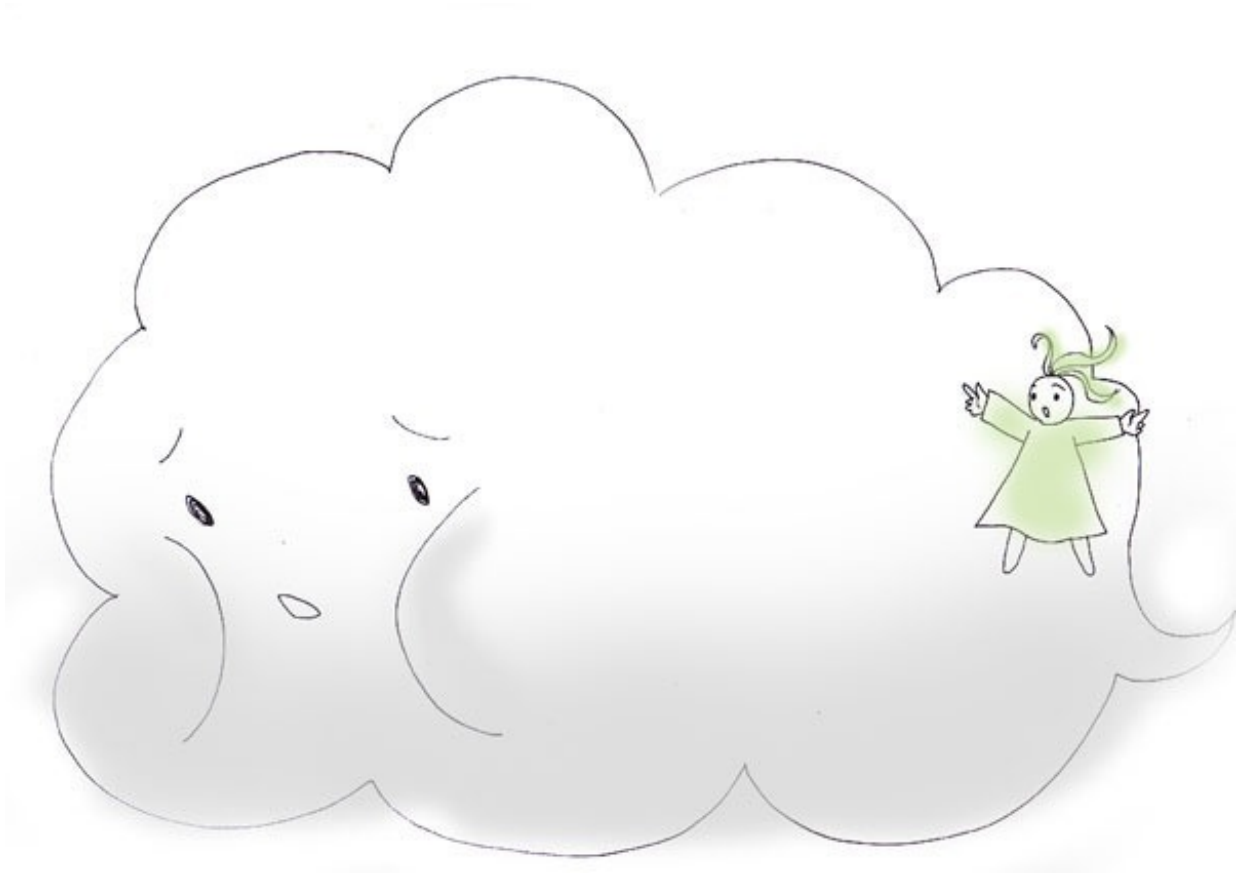


おひさまが にこにこの ひは

おみずが じょうはつ するのも はやいんです。

「ねえ くらうど

どんどん どんどん ふくらんでいってるよ」



「そうだね なんだか ぼくも からだが おもたいや」

くらうどの からだが どんどん どんどん おおきく なっていきます。

「はやく おうちに かえらなくちゃ」

くらうどが いいました。

「じゃあ わたしが がんばって  
たくさん かぜを ふかなくちゃ」

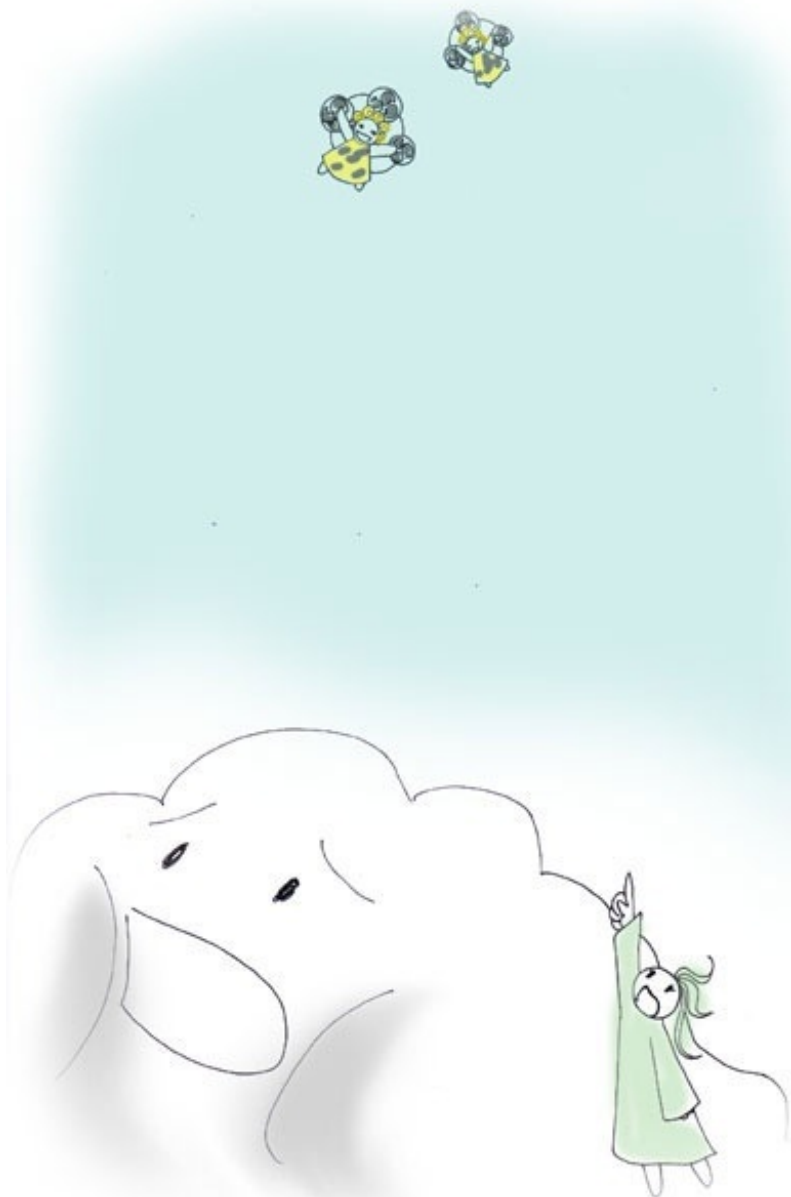
ういんでいが いいます。

ふと ういんでいが うえを みあげると

とおく とおくの おそらから かみなりのこが おりてくるのがみえました。

「あ！ たいへん！ くらうど！

かみなりのこが おりてきたよ！！」





「それは たいへんただ！」

くらうどは かみなりのこが にがて でした。

からだの うえで どんどんと たいこを うちならして

かみなりを たくさん つくって

くらうどの からだは ちくちくと はりが ささるように いたんで

どうしても がまん できないからです。

「かみなりのこが ぼくの うえに おりるまえに とおりすぎなきゃ

ういんでい おねがい！

はやく すすめるように かぜを たくさん ふいておくれ」

くらうどは ういんでいに おねがいしました。

「うん わかった

ふう—————！！

ふう—————！！！！

ふうふう—————！！！！！！」

ういんでいは いっしょうけんめい かぜを ふかせます。

ういでいは いっしょうけんめい かぜを ふきます。

でも おおきくなった くらうどの からだは  
なかなか まえに すすみません。

「ふう——・・・」

くらうど からだが おもくて なかなか すすまないよ・・・」

と ういでいが いいました。



すると とおく とおくの おそらから

おりてきていた かみなりのこが

ついに くらうどの からだに おりてしまいました。

「あっ！！！！！」

ゴロゴロ ドンドン!!!

「これは いいや!!!」

「おおきな くもだ!!!」

かみなりのこは おおよろこびで たいこを どんどん うちならします。



ゴロゴロ ドンドン!!!

「いっぱい あそべるね!!!」

ゴロゴロ ピカピカ ピカ ドンドン！！

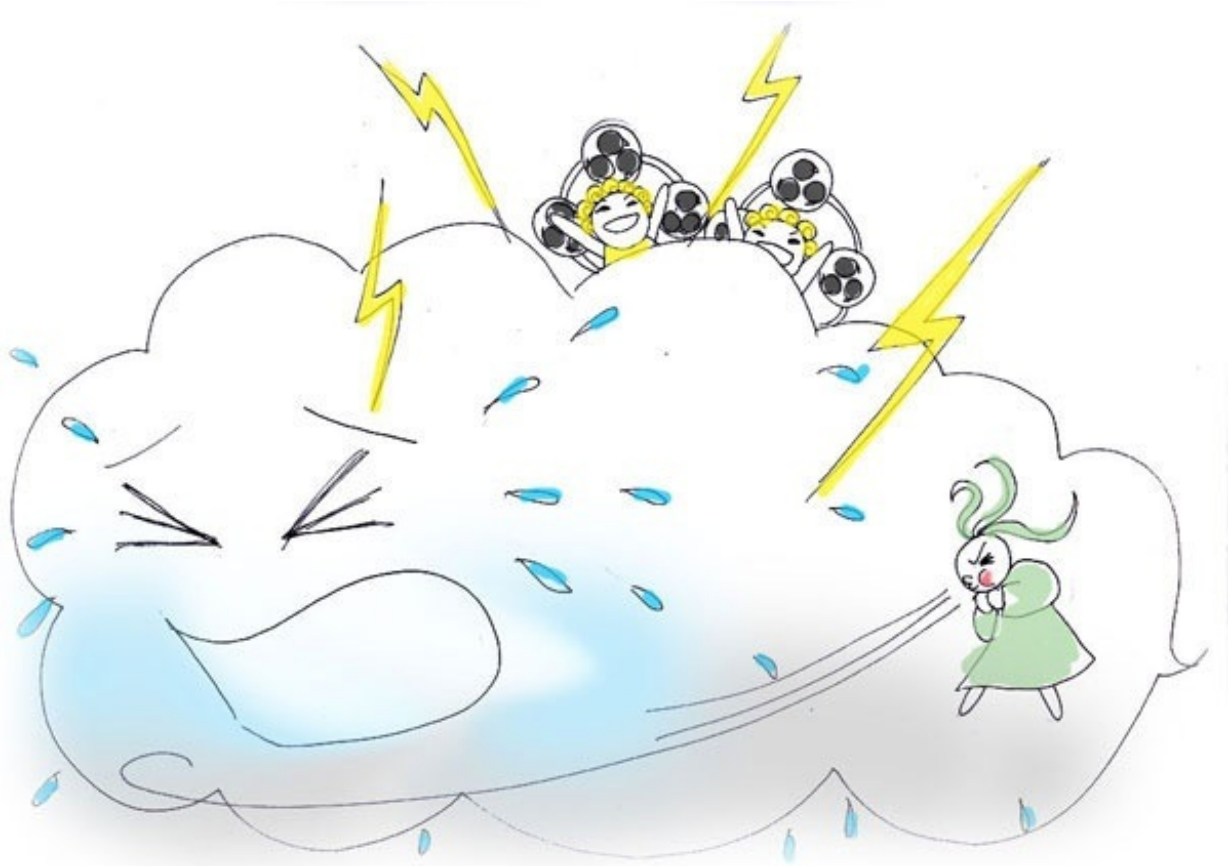
「うわ———!!!

いたいよ!!

ぼくの うえで あばれないで!!!」

くらのどの うえで かみなりのこが たいこをならすたびに

くらのどは ちくちく からだが とても いたみます。



「いたいよ! いたいよ!!

うわ———ん!!!!」

くらのどは たくさんないて

たくさん あめを ふらせました。

ういでいは くらうどが かわいそうになって

はやく すすもうと たくさん かぜを ふかせています。

「くらうど！がんばって！！

いま たすける からね！！

ふう————！！

ふう————！！！！

びゅ————！！！！！！」

ピカ ピカ ドンドン!!!!



「うわっ!

あしもとが くずれてきたぞ!!!」

たくさん ないて たくさん あめを ふらせた くらどの からだは  
うすく ちいさくなって いました。

「わ—————!!!!



おちる————！！！！」

ちいさくなった　くらうどに　たつことができずに  
かみなりのこが　つぎつぎに　おちて　いきました。

「くらうど くらうど だいじょうぶ？」

しんぱいそうに ういんでいが ききました。



「うん ちょっと いたかったけど だいじょうぶだよ

ありがとう ういんでい

それに たくさん ないたから

なんだか からだが かるくなったよ」

くらうどは こたえました。

「じゃあ そろそろ ぼくたちの おうちに かえろうよ」

くらうどは いいました。

「うん そうね・・・

ねえねえ くらうど」

「なあに？ ういんでい」

「あしたは どこに おさんぽに いこうか？」

「そうだなあ・・・

ぼくは ういんでいの いきたい ところに いきたいな」



「じゃあ あしたは もっと もっと とおくへ おさんぽに いこうよ」

「うん いいよ また あしたね」

くらうどは あしたの おさんぽが

とても たのしみに になりました。